

第5回 豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会 会議録（要旨）

- I 日時** 2024年5月24日（金）19時00分～20時10分
- II 場所** 豊岡市役所 竹野庁舎 大会議室
- III 出席者** <<委員>>17名（委員名簿順）
田中博文委員長、加藤未来副委員長、田村高志委員、仲治寿幸委員、大井真由美委員、上野真希委員、宮崎裕紀委員、太田垣輝尚委員、辻正孝委員、山本英里子委員、福田達也委員、高田健一郎委員、宇川博久委員、間智子委員、小林昌弘委員、増田克志委員、上田彩乃委員
（欠席）古保治郎委員、富森孝委員、長谷川博子委員
米田達也豊岡市議会議員（オブザーバー）
<<事務局>>6名
正木一郎教育次長、寺坂浩司課長（学校教育課）、木之瀬晋弥課長（教育総務課）、野崎律男参事（同）、川瀬貴之主幹（同）、今井雄一主査（同）
- IV 傍聴者** なし
- V 内容**
- 1 開会
 - 2 挨拶
委員長から挨拶
 - 3 議事
 - (1) 前回（第4回 開設準備委員会）以降の経過等について
資料1をもとに経過説明
あわせて、施設の整備概要として校舎のパース図（資料7）を示す
 - (2) 部会からの報告・提案について
 - ア 学校応援部会（制服検討委員会）での制服の検討（報告）
制服検討委員会 A委員より制服の検討状況を報告
 - ・制服勉強会を実施する等、制服が必要なのかという視点から協議を重ねてきた。保護者・生徒・児童から意見をとりまとめ、資料2の制服を導入することとした。
 - ・オープンスクールの際には、実際に生徒に着用してもらい披露した。
 - ・着用する学年や体操服については今後調整する。
 - ・小学校の制服についても今後調整するが、現在の制服のままでいく方向で検討している。
 - イ 教育課程検討部会の検討（報告・協議）
教育課程検討部会での検討状況を事務局より報告（資料3-1）
（仮称）竹野学園ならではの特色のある教育について
 - ・自然・文化・歴史等、竹野地域の素材を活用し、体験だけでは終わらせない、これまで以上に「教科等横断学習を発展させた“竹野版のふるさと学習”」が

望ましい。

- ・学年段階の区切りは「4-3-2」が望ましい（ただし、検証が必要）。
として部会から提案、開設準備委員会としてもこれを了承した。

(3) 校歌、校章の検討について（協議）

ア 校歌について

（仮称）竹野学園の校歌は、現竹野中学校の校歌をそのまま受け継ぐこととして進める

イ 校章デザイン（案）の募集について

校章については、竹野小・中学校の児童・生徒（小5～中3）を対象として、デザインを募集する案について、資料5をもとに意見交換

- ・デザインの募集については、資料5の内容で了承。

ただし、最終候補の選定にあたっては、提出された作品を確認し、選定方法を改めて検討する。

(4) その他

- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の委員選任について 資料6
竹野中学校長より説明
会議終了後、委員選任についての説明・依頼を行う
- ・質疑等

VI 主な発言内容等（要旨） 参照

4 次回予定

- ・開設準備委員会は、校章の募集が終わり、とりまとめができ次第開催する。

（その他）

- ・制服検討委員会では引き続き体操服や制服の着用学年等の協議をお願いしたい。
- ・通学方法については、地区での見守り体制も含めて学校応援部会での議題としたい。
- ・教育課程検討部会は、学校で教育内容（案）ができ次第、中間報告の機会を設けたい。
- ・閉校式・開校式については、次回の準備委員会の議題とする。

5 閉 会

VI 主な発言内容等（要旨）

※意見・質問があった部分のみ掲載

(2) 部会からの報告・提案について

ア 学校応援部会（制服検討委員会）での制服の検討（報告）

《A委員》

制服の検討状況について報告する。

小学5年生から中学3年生の学年委員、小中学校のPTA会長副会長、認定こども園の会長、合計15名で竹野制服検討委員会を立ち上げ、検討を進めてきた。

11月27日に竹野中学校で制服メーカーの担当を招いて、制服学習会を開催した。

12月14日に委員会を開催し、保護者目線での意見の取りまとめを行った。

1月中旬に複数のメーカーに見積もりを依頼し、委員会で事業者を決定した。

4月16日の委員会で、ある程度のデザインを決定した。

デザインで決めきれなかった、スカートの柄やネクタイ、リボンについては、竹野中学校に制服を展示してもらい、アンケートによって意見を収集した。

4月27日の竹野小学校PTA総会で経緯を説明し、制服を展示、アンケートを実施した。

5月9日に委員会を開催し、最終的なデザインを決定した。

5月11日の竹野中学校PTA総会では、生徒が実際に制服を着用し、モデルウォークで披露してもらった。

その後、生徒の皆さんに制服を着用する機会を設け、新しい制服のイメージを共有してもらった。

今後は、体操服についても検討することとして準備を進めている。

《B委員》

夏服はどうなるのか。

《竹野中学校長》

現在、衣替えはしておらず、子どもたちが制服を着るのか、半袖にするのかを判断する。卒業式等、儀式的な行事については、制服（上着）を着用してもらう。

制服を着ないとき、上着をポロシャツにするのか、カッターシャツにするのか等も案をいくつかいただいているので、保護者や生徒会と相談をしながら経済的な負担や使い勝手等を考慮しながら詳細を決めていきたい。

《C委員》

竹野小は現在、制服があるが、今後どうなるのか。

《A委員》

新しい制服を何年生から着るのか等、まだ決定していないのでこれから決めていくが、おそらく中学1年生に相当する7年生からの着用ということで落ち着くと思う。

それ以下の学年については、現在の（小学校の）制服の使い勝手が大変良いので、このままいく方向で検討している。

(3) 校歌、校章の検討について（協議）

イ 校章デザイン（案）の募集について

《B委員》

小学校、中学校の校章はどこについているのか。

《竹野小学校長》

校舎の壁面についているほか、体育館の緞帳・演台、その他学校要覧に印字している。

《B委員》

帽子や制服には校章は入っていないのか。

《竹野小学校長》

帽子や制服にはつけていない。

《竹野中学校長》

中学校も同様である。

《B委員》

それならばよい。帽子や制服についているものはどうしても落としてしまうので。

《A委員》

例えば会社でロゴマーク等を作るときは、理念やイメージカラーが決まっている状態から作ると思うが、学校の方向性や「竹野とは」とか、校訓が決まっていない中、なぜこの校章にしたのかという意見を求めながら作るのは危険ではないかと思う。たたき台等をこの場で決めてから募集するのが良いのではないか。

《事務局》

そのような手順で進めている事例もあるが、校訓等については、今後検討することとなる。イメージ的なものが固まった段階で校章を作成した場合、開校に間に合わない場合がある。

今回は、竹野のことをイメージしやすいよう、竹野の子どもたちに、イメージした内容、校章の意味も含めて応募してもらうこととしているが、別に新しい学校の方向性、イメージを固めてから募集した方が良いということであれば、そのような手順も検討する。

《A委員》

特定の地区に偏った校章にならないよう考慮する必要があるのではないかと思う。

《D委員》

最終的には審査をするわけだから、初めはあまり制限をかけない方が良いのではないか。イメージ等の制限をかけてしまうと、似たような作品ばかりになってしまう。ある程度、自由な発想で書いてもらって、審査の場で調整した方が良い。

応募件数があまり多くなかった場合、採用できる作品が出てこない可能性がある。ある程度、たくさん出てくる手立てを考えた方が良いのではないか。

《E委員》

A委員の意見に賛成である。色などあまり制限をかけすぎるのは良くないが、応募の件数が少なくなったとしても、竹野のすべての地区でひとつの学園というイメージで作ってもらった方が良いのではないか。

《F委員》

選定する側である程度、イメージを固めておく必要があるのではないか。また、開設準備委員会だけで選定するのか。例えば、地域の方にも聞くとか、せめて、小中学校の子どもたちに聞いてみるとかは考えていないのか。

《事務局》

選定に際して、まずは、開設準備委員会で絞り込んでいただいて、その後、地域の方や子どもたちに聞くという方法も可能である。選定の方法、応募の方法、たとえば、応募対象を5年生以上としていることも含めて、案であるので、意見を聞かせていただきたい。

他の自治体では、こういったイメージを組み込むことという条件付けをしているところもあるが、応募するのは専門家ではなく子どもたちであるので、あまり条件をつけるとハードルが高くなってしまわないかと考えている。

《F委員》

それで結構かと思う。最終的に2点に絞って、どちらが良いかというアンケートでもよい。地域の皆さんに、今、校章を決めているということ知ってもらい、住民全員で考えていただければと思う。

《竹野中学校長》

子どもたちが、デザインとして完成したものを描かせるのはハードルが高いと思う。あるものを写して描くとか、自分で好きなキャラクターを描くのは好きな子どももいるが、校章デザインという発想ができるかどうか。今あるものを参考に描くのが精いっぱいではないか。どんな発想が出てくるかはわからないが、子どもたちに描かせるのであれば、多少的外れであったり、つたないものが出てきてもその中で、その発想は面白いな、このデザインはいいなといったものを、場合によっては組み合わせて合作にするようなことがおそらく現実的なことではないか。

中学校の校訓は、「至誠」・「自立」・「宏大」だが、そういったものでイメージが浮かぶのかどうか。スクールポリシー等から校章が作れば良いのだが、子どもから出てきたアイディアから、こんな学校とか、こんな地域にしたいんだなとイメージをこちら側が膨らませていけばいいなと考えている。

《事務局》

最終選考について、どのように決めていくのか、委員が決めるのか、子どもたちに決

めてもらうのか、地域にまで広げるのか、そのあたりのご意見もいただきたい。

《C委員》

みんなで校章を作ったという形にするのが好ましいと思う。手間かもしれないが、アンケートで決めていただければと思う。

《竹野中学校長》

例えば個人で完成度の高いものが出てきて、それが2人いて、最終段階でどちらかが受かってどちらかが落選するといったことが出てくるのが良いことなのかどうか。

この場で結論を出すのではなく、出てきた作品をみてから考えてはどうか。

《事務局》

それでは、今、ここで結論を出すのではなく、作品を見て、改めて検討するということでよいか。

《会長》

それでは、そのように進めていただく。

(4) その他 質疑等

《A委員》

保護者から、バス通学のことについて聞いてきてほしいと言われている。

現状、小学生はバスで通っているが、中学校と一緒にした時にどうなるのか。

これまで、除雪ができていないとか、波が高くて結局保護者が送っているといった状況なので、これを機会に、すべてバス通学にしていただくことを強く望む。

《竹野中学校長》

バス通にする場合、予算の関係もあると思う。中学校側としても、指導が変わるため、早めに協議をしてほしい。

《事務局》

通学方法については、地区での見守り体制も含めて学校応援部会での議題としたい。その前に、学校・PTAで、通学ルートの確認や現状の課題、不安な点等について、意見を取りまとめていただきたい。

意見がまとまり次第、協議の場を持たせていただきたい。

《G委員》

今年度末に小学校・中学校が閉校し、4月に開校するという予定であると思う、小学校・中学校とも閉校式をすると思うが、閉校記念行事を、実施するのかもしれないのか、誰が何をやっていくのか等どのように決めていくのか。進め方を確認させていただきたい。

《事務局》

閉校式・開校式については、現在、事例を収集している状態である。開校は4月だが、施設の利用開始は9月からの予定である。4月に開校式を行うのか、9月の施設利用開始にあわせて開校式を行うのか、また、地区での記念行事をどうするのか等、次回の準備委員会で協議をさせていただきたい。

(以上)